

陸奥新報

7月16日
月曜日

©陸奥新報社2012

放任リンゴ園活用提案

弘大・城田
准教授 未熟果、無農薬で

弘前大学農学生命科(64)「進化生態学」は
学部の城田安幸准教授 15日、無農薬リンゴの



無農薬リンゴ栽培の研究圃場を公開した城田准教授

栽培研究をしている青森市浪岡高屋敷の圃場を公開した。城田准教授は重要害虫のモモンクイガについて、フェロモントラップを活用し未熟果のうちに収穫することで、発生を抑制できるとした研究成果を公表。放任園を

未熟果栽培に転用し、未熟果を使ったジュースの増産に道が開けると提案した。

城田准教授らは数年間農薬を散布していない同市内の別の畑で、7月中旬に全果実を収穫した場合のモモンクイガなど3種のガの個体数の推移を調べたと

ころ、2008年から10年の間に個体群密度が10分の1となった。実験結果は日本応用動物昆虫学会で発表した。

今回公開した圃場も同様の栽培方法に取り

組んでおり、希釈した食用酢の散布や窒素補給用堆肥の施肥を行ってきたが、農薬は5年間不使用。軽度の病害が発生したものの、免疫力で立ち直ったふじやシヨナゴールドの青い実がなっていた。

城田准教授は「成熟果の収穫をどうするかという課題はあるが、未熟果の栽培用としては十分。放任園を未熟果用に転用できる」とし、未熟果汁を使ったジュースの増産が視野に入るとも述べた。

(渋谷 弘一)